1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2190100277		
法人名	ハートライフ株式会社		
事業所名	グループホーム ハート六条 1番館		
所在地	岐阜県岐阜市六条江東3丁目1番26号		
自己評価作成日	令和 3年12月15日	評価結果市町村受理日	令和 4年5月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&Jkxsvocd=2190100277-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 岐阜後見センター
所在地	岐阜県岐阜市平和通2丁目8番地7
訪問調査日	令和4年1月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナ禍での面会制限がある中、独自で最低限、玄関先で感染予防を充分行い対面して頂く面会の形をとりました。窓越しでは淋しい思いが強くなるだけの為不安にならない為に家族との交流は継続しております。ホーム内で出来る行事、誕生会、畑仕事、お彼岸団子作りなど楽しんで頂いています。日課、1日の流れはありますが、利用者様に合わせた1日を過ごして頂いております。身寄りのない方などの相談に応じて受け入れもさせて頂いております。よほどの理由がない限り最期までホームでの対応をモットーにご家族の一員となって温かいケアに努めさせて頂いております。

【(外部評価で確認した事業所の優れている点,工夫点(外部機関記入))】

ホームは、自然環境の良い静かな住宅地に位置し、屋内に入ると天井から職員が作成した折り紙細工が綺麗に飾られているとともに、壁には入居者との共同作品や行事の写真等が掲示されており、温かみのある雰囲気を感じられる。職員は「人に感謝、日々に感謝、地域に感謝」の理念を具現化したケア実践に努めており、今年度も、昨年度に引き続き、コロナ禍の影響で外出や来訪、地域交流等が制限的にならざるを得ない状況にあるが、その中でも、できる行事や面会方法を考える等、工夫してコロナ禍に対応したケアに取り組んでいる。食事はリビングに隣接したキッチンで作れ、準備の段階から美味しそうな香りが漂い、また、利用者もそれぞれに役割を持ち、参加しながら用意する等しており、家庭的な食事風景が見て取れた。献立も利用者との会話を基に一緒に考えており、チラシで話題になればメニューに反映させる等、臨機応変に対応している。ターミナル期等には医師から家族への説明があり、協力医による定期往診に加え、24時間対応可能な訪問看護を受けつつ、利用者・家族の意向に沿った看取りケアを行っている。また、訪問看護師による職員への研修が行われる等、医療連携体制もできている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「人に感謝、日々に感謝、地域に感謝」を理念に掲げ、管理者や職員は介護の仕事をさせて頂いている喜び、感謝をとて感じている。	理念は玄関やフロアに掲示している。全体会議において、ホーム独自の理念の作成についても提案がある等、積極的に意見が交わされており、改めて法人理念の意味を再確認する機会となっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に初めて出席して町内の人達と意見交換ができた。	自治会の会合へ出席し、自治会連合会支部長との繋がりもできてきて、運営推進会議への出席もしてもらっている。現在、コロナ禍の為、ボランティアの受け入れは控えているが、近況報告を行う等して、ボランティアとの繋がりも継続されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在は活動していないが、認知症の理解を得るチャンスとして職場体験などの受け入れをしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は6月のみ、緊急事態制限もありグループホーム内で行い、後は2ヶ月に1度の運営推進会議を開催し他機関と情報や意見交換できた。	コロナ禍においても、感染予防に十分心がけた上で開催している。近況報告等から人材確保や感染予防策、災害対策等の課題について意見が交わされていて、避難方法の助言や避難場所について再確認する良い機会にもなっている。	現在、家族への負担感に配慮し、運営推進会議への出席を依頼していない。様々な意見交換が行われている会議であり、利用者・家族の立場からの出席により、更に有意義なものになるとともに、家族への情報公開も進むと思われるので、今後、参加への工夫に向けた取り組みに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	高齢福祉課と後見人について連携ができた。又、包括支援センターの協力も得て新入所の相談が入っている。	身寄りのない方の受入れ、入院利用の場合や成年後見制度について、高齢福祉課から説明や助言を得る等、ケースを通じて連携を深めている。地域包括支援センターとは運営推進会議への出席に加え、日頃空き状況等の報告等で連携ができています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修で情報を共有し問題解決している。	会議後の30分程で研修を行っている。資料の読み込みをしたり、法人幹部を講師に迎えて実施したりしている。行動抑制にならないよう対応に気を付けて、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関は施錠されているが、ユニット出入り口は施錠せず、一緒に畑に出たり、散歩をしたりしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ホーム内の虐待は一切無い。更に今後も今までのように防止に努めていきたい。職員会議で言葉遣い、対応の仕方等を話し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	身寄りない方があり、入院や入所身元保証人が問題となり、後見人等の情報を得ている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に文書と口頭にて十分説明をし、トラブルの無いように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関にポスターや苦情受付ポストを設置し、利用者や家族が意見、不満、苦情を言える環境は整っており、直接運営に反映させる様にしている。	コロナ禍により面会を制限していたが、本人や家族から聞かれる「会いたい。」との意向を汲み、感染予防対策を万全にし、周りの感染状況も踏まえた上で対面での面会にできる限り応えている。面会時に伺った要望についても対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議や申し送りに意見・要望を聞く様にしている。全体会議でも皆で意見を持ち寄り解決に繋げている。	ユニット会議や全体会議が月に1回ずつあり、職員の意見交換や意見の汲み上げができています。業務の効率化が話題となり、職員のユニット間でのローテーション等が検討され、実行されている。昼の休憩以外にもお茶タイムを設けており、意見把握の機会にもなっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	環境整備に当たり、人員不足についてはハローワークの就職説明会に申し込み人材獲得することが出来た。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年度はコロナ禍で外部研修が中止になる事が多かった。事業所内での内部研修でケアの充実を図った。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年度はコロナで機会が減少し、今後は積極的に参加するようしていきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所された肩が不安になり帰宅願望が続いている事に対して、安心安全にホームでの生活を送って頂く様職員一同が統一ケアに努め、ご家族とカンファレンスを実施している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前、入居初期は特に不安だと思いますので、家族等が困っている事、不安な事、要望等に耳を傾け信頼関係を築いている。体験入所も取り入れている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他のサービスの長所なども説明させて頂き、本人、家族の事を第一に考えるように努めている。希望があれば他のサービス事業所と連絡をとったり、紹介させて頂いている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の思いを常に考えながらアットホームな雰囲気作りを心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族も何でも言い合える関係を作っています。些細の事でも、電話や面会時に話し合い利用者様が快適に暮らせるよう支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの美容院がある方は利用して頂いています。又、面会要望、電話、手紙等で馴染みの関係支援をしている。	行きつけの美容院に出かける際には、家族の協力を得ている。コロナ感染状況を見定めて、感染予防対策をしっかりとお願いした上で短時間の外出を認めている。日頃の会話で言われている会いたい人について、家族に伝え、感染予防対策をして、面会に来ていただく等、関係継続の支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ゲームや体操、おやつなどみんなで共有する時間を大切にユニットで交流を深めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了した後も連絡を取ったり、相談に乗り、本人や家族の事をフォローしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	コロナ感染予防で面会の制限がありました。なるべく希望に沿える様にご家族との交流を心掛けている。	日頃の会話から聞き取れた意向については可能な限り対応している。会話で表せない場合は、表情やしぐさ等を観察し、行動背景から意向の把握に努めるとともに、本人の家庭での状況やライフヒストリー等を家族からも情報収集するようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面接時、本人ないし家族に聞き取りをしている。職員全員が利用者様の生活歴を把握して、その人らしく生活できるように心がけている。全員が個人ファイル等の閲覧等により、利用者様の生活歴を把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入所者それぞれの生活歴を把握し、その生きてきた経験を生かせる場面を提供し、その人らしい暮らしが出来る様支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族等とは電話や面会時に話をし、職員間ではその都度、また月一回の会議で介護方針を見直している。	ケアプランは3か月ごとに見直しを行っている。転倒や入院等により、状態が変化した場合にも見直しをしている。家族にはケアマネージャーから聞き取りを行い、意見を反映させている。更新したプランは個人カルテに整理・保管することにより職員間で共有できるようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	排便チェックなど一階と2階で記録の仕方が違っていたが統一して誰もが分かるように変えた。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族との対面が少なくなってきた中、不安が強くない様に、電話など安心して頂けるように支援していく。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方、民生委員、警察、消防等とは連絡を取り、安全で豊かな暮らしができるように支援している。特に消防署とは昔から密な関係であり緊急時の対応をお願いしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の様々な病状変化等に、常に医師・看護師・家族等とスタッフが連携している。24時間訪問看護とも連携しており、医療面でも大変安心できる。	入居前のかかりつけ医を継続できる。また、在宅診療の専門医や24時間対応の訪問看護との契約もあり、緊急時の対応も十分にできている。他科受診の際には家族の対応となるが、ホームでの様子や受診結果は書面で共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	提携病院の看護師に個別の問題があり相談すると、熱心に助言対応して下さり、医師との連携もとって下さる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した利用者様には週一度以上は訪問し状態を把握している。家族の支援が困難な利用者様には家族に代わって洗濯等の必要な援助も行っている。普段より病院の相談員とは連絡を取り合っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	寝たきりの方の入浴の支援で今までシャワー浴でのシャワーチェアしかなかったが、重度化に伴い、ストレッチャーを導入して対応が出来るようになった。	入居時に看取りについて指針を示し、同意を得ている。重度化した場合、看取りまで依頼される方がほとんどであるが、その都度、かかりつけ医から説明を行い、意向を聞いている。職員は訪問看護から看取りについての心構えや状態についての研修を受け、心のケアにも対応できている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全ての職員が年一回以上の心肺蘇生法の講習を行い、随時、初期対応の訓練を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回の避難訓練を行っている。通報、消火、避難訓練を毎回経験し、誰もが日頃から慌てずに対応出来るようにしている。(夜間想定)の訓練年一回実施している。緊急時の連絡網を実施している。	避難訓練(昼・夜想定)は定期的に行われており、避難・消火等の対応手順について職員間で共通理解している。近くには避難場所もあるため、大きな災害時はその場所に避難することとしている。また、食糧・水・オムツ等の備蓄がある。	近くに河川があり、ハザードマップでも水害の対象区域になっているので、今後、緊急時に備え、課題を明らかにすべく、垂直避難等の避難訓練についても検討されたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレ利用に失敗しても気にされない様に声掛けしている。居室に訪室する時には必ずノックしている。	入居前の生活を把握し、利用者の個性を把握するとともに、尊厳を大切にケアにあたるよう職員に周知している。「親しき仲にも礼儀をわきまえた」声かけができるよう、会議等で話し合い、職員の共通認識としている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様が今、何をしたいのか聞きながらご本人が自己決定できる様にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様のペースを大切に、居室やフロアと各々自由に過ごして頂いてる。希望の利用者様は職員の付き添いのもと、近くの喫茶店に行くこともある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	中には洋服をご自分で選んで着ている方もいる。散髪も二ヶ月に1回訪問理容に来て頂いている。タンスの中の衣類整理は担当者で行なっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	外食が出来なくなった為利用者さんが好まれるメニューを聞きとり、又、月1度以上はテイクアウトのすしや弁当にし喜んでもらっている。	利用者それぞれの状況に応じて、芋やフキの皮むき、エンドウの筋取りなどを手伝ってもらっている。冷蔵庫の中の物で何ができるか利用者と一緒に考え、献立を立てたり、月1回は利用者のリクエストに応えたりしている。また、お正月やクリスマスには、行事食を提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分量の摂取を常に記録し、利用者様の状態にああ瀬手食事を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの必要性を全職員が理解しており、洗浄時間や洗浄法等一人ひとりに合わせた支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のリズムやパターンを観察し、その方に合わせて声掛け、介助、見守りを行っています。さりげなく介助し、事故や不安のないよう心掛けている。歩行の不安定な方は夜間ポータブルを設置している。	ほとんどの方がリハビリパンツ使用であるが、定期的に声かけを行う等してトイレでの排泄を促している。トイレ誘導の際は本人の自尊心に配慮し、何気なく声かけをすることでスムーズにトイレ利用を行ってもらっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人一人、一日の水分補給をしっかりと摂れるようにチェック表を用いながら心掛けている。食物繊維の多い食品を使用して調理したり、ラジオ体操、レクリエーション、散歩等の運動を心がけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回を基本として希望や状況に応じて柔軟に回数を設定している。入浴したくない方にはスタッフを代えたり、時間を変更したりしている。柚子湯や菖蒲湯など楽しんで頂いている。	専門職員による週2回の入浴を実施している。拒否行動がある場合には、声かけを工夫し、無理強いすることなく、納得して入ってもらうよう配慮している。菖蒲湯やゆず湯等で季節感を感じてもらえるよう心がけている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中は活動して生活リズムを整えながら一人ひとりの体調や私情を見て、休息が摂れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	管理は個人別に分けて、出勤者が全員で誤薬がない様確認している。処方の変更は協力医と連携をとっている。薬剤師から詳しい説明を受けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様それぞれの生活歴を把握し、その生きてきた経験が活かせる場所を提供し、日々話し合いながらその人らしい暮らしができるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人の希望を家族に伝え、出来るだけ外出はご家族にご協力して頂ける様にしている。	コロナ禍の為、今までのように外食や喫茶店に出かけることはできなくなったが、敷地内の畑での野菜作りや近隣の散策等を通じて、できる限り、戸外に出て、外気に触れていただけるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	特定の方はお小遣いを毎月貰い必要な物はスタッフに購入依頼している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望により、電話をかけて頂いている。手紙に関しては、手紙に関しては、字が書けない方は、職員が支援し代筆することもある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	静かな住宅街なので不快な音や光も無く穏やかに過ごされている レクリエーションでは、季節に合った工作を行い、展示している。整理整頓には心掛け、清潔感も保っている。	採光に優れたリビングであり、室温管理を行うとともに、感染予防のため換気にも注意している。壁には季節感のあるちぎり絵や写真が掲示され、天井や壁・廊下・居室の入り口には折り紙等の作品が吊ってある等、趣きのある落ち着いた空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	仲の良い利用者同士で居室を行き来して雑談できるリラックスしたふんいきの仲で楽しく1日を過ごして頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にご本人・ご家族の希望に応じて、居室の北向き、南向きの意向を聞き入れ可能な限り居室替えをしている。途中でご本人の気分が変わった時の要望にも応じ模様替えをしている。	自宅で使用していた筆筒や椅子、化粧台等を持ち参し、壁や筆筒の上には、家族と写した写真や貼り絵が飾られている等、自宅の延長である雰囲気があり、利用者の生活スタイルが大切にされている。また足元や動線には物を置かず、避難の際に障害とならないよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	職員がすべて行ってしまわずに、そばに付き添って声掛けを行い、本人の力を引き出すようにしている。掃除等の当番を設けてひとりひとりの役割りを持ってもらっている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2190100277		
法人名	ハートライフ株式会社		
事業所名	グループホーム ハート六条 2番館		
所在地	岐阜県岐阜市六条江東3丁目1番26号		
自己評価作成日	令和 3年 12月 15日	評価結果市町村受理日	令和 4年 5月 31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JkyosvoCd=2190100277-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 岐阜後見センター
所在地	岐阜県岐阜市平和通2丁目8番地7
訪問調査日	令和4年1月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナ禍での面会制限がある中、独自で最低限、玄関先で感染予防を充分行い対面して頂く面会の形をとりました。窓越しでは淋しい思いが強くなるだけの為不安にならない為に家族との交流は継続しております。ホーム内で出来る行事、誕生会、畑仕事、お彼岸団子作りなど楽しんで頂いています。日課、1日の流れはありますが、利用者様に合わせた1日を過ごして頂いております。身寄りのない方などの相談に応じて受け入れもさせて頂いております。よほどの理由がない限り最期までホームでの対応をモットーにご家族の一員となって温かいケアに努めさせて頂いております。

【(外部評価で確認した事業所の優れている点,工夫点(外部機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「人に感謝、日々に感謝、地域に感謝」を理念に掲げ、管理者や職員は介護の仕事をさせて頂いている喜び、感謝をととも感じている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に初めて出席して町内の人達と意見交換ができた。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在は活動していないが、認知症の理解を得るチャンスとして職場体験などの受け入れをしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は6月のみ、緊急事態制限もありグループホーム内で行い、後は2ヶ月に1度の運営推進会議を開催し他機関と情報や意見交換できた。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	高齢福祉課と後見人について連携ができた。又、包括支援センターの協力も得て新入所の相談が入っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修で情報を共有し問題解決している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ざされることがないように注意を払い、防止に努めている	ホーム内の虐待は一切無い。更に今後も今までのように防止に努めていきたい。職員会議で言葉遣い、対応の仕方等を話し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	身寄りない方があり、入院や入所身元保証人が問題となり、後見人等の情報を得ている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に文書と口頭にて十分説明をし、トラブルの無いように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関にポスターや苦情受付ポストを設置し、利用者や家族が意見、不満、苦情を言える環境は整っており、直接運営に反映させる様にしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議や申し送りに意見・要望を聞く様にしている。全体会議でも皆で意見を持ち寄り解決に繋げている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	環境整備に当たり、人員不足についてはハローワークの就職説明会に申し込み人材獲得することが出来た。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年度はコロナ禍で外部研修が中止になる事が多かった。事業所内での内部研修でケアの充実を図った。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年度はコロナで機会が減少し、今後は積極的に参加するようしていきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所された肩が不安になり帰宅願望が続いている事に対して、安心安全にホームでの生活を送って頂く様職員一同が統一ケア煮勤めご家族とカンファレンスを実施している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前、入居初期は特に不安だと思いますので、家族等が困っている事、不安な事、要望等に耳を傾け信頼関係を築いている。体験入所も取り入れている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他のサービスの長所なども説明させて頂き、本人、家族の事を第一に考えるように努めている。希望があれば他のサービス事業所と連絡をとったり、紹介させて頂いている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の思いを常に考えながらアットホームな雰囲気作りを心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族も何でも言い合える関係を作っています。些細の事でも、電話や面会時に話し合い利用者様が快適に暮らせるよう支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの美容院がある方は利用して頂いています。又、面会要望、電話、手紙等で馴染みの関係支援をしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ゲームや体操、おやつなどみんなで共有する時間を大切にユニットで交流を深めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了した後も連絡を取ったり、相談に乗り、本人や家族の事をフォローしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	コロナ感染予防で面会の制限がありました。が、なるべく希望に沿える様にご家族との交流を心掛けている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面接時、本人ないし家族に聞き取りをしている。職員全員が利用者様の生活歴を把握して、その人らしく生活できるように心がけている。全員が個人ファイル等の閲覧等により、利用者様の生活歴を把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入所者それぞれの生活歴を把握し、その生きてきた経験を生かせる場面を提供し、その人らしい暮らしが出来る様支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族等とは電話や面会時に話をし、職員間ではその都度、また月一回の会議で介護方針を見直している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	排便チェックなど一階と2階で記録の仕方が違っていたが統一して誰もが分かるように変えた。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族との対面が少なくなってきた中、不安が強くない様に、電話など安心して頂けるように支援していく。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方、民生委員、警察、消防等とは連絡を取り、安全で豊かな暮らしができるように支援している。特に消防署とは昔から密な関係であり緊急時の対応をお願いしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の様々な病状変化等に、常に意思・看護師・家族等とスタッフが連携している。24時間訪問看護とも連携しており、医療面でも大変安心できる。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	提携病院の看護師に個別の問題があり相談すると、熱心に助言対応して下さり、医師との連携もとって下さる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した利用者様には週一度以上は訪問し状態を把握している。家族の支援が困難な利用者様には家族に代わって洗濯等の必要な援助も行っている。普段より病院の相談員とは連絡を取り合っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	寝たきりの方の入浴の支援で今までシャワー浴でのシャワーチェアしかなかったが、重度化に伴い、ストレッチャーを導入して対応が出来るようになった。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全ての職員が年一回以上の心肺蘇生法の講習を行い、随時、初期対応の訓練を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回の避難訓練を行っている。通報、消火、避難訓練を毎回経験し、誰もが日頃から慌てずに対応出来るようにしている。(夜間想定)の訓練年一回実施。緊急時の連絡網を実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレ利用に失敗しても気にされない様に声掛けしている。居室に訪室する時には必ずノックしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様が今、何をしたいのか聞きながらごほんにんが自己決定できる様にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様のペースを大切に、居室やフロアと各々自由に過ごして頂いてる。希望の利用者様は職員の付き添いのもと、近くの喫茶店に行くこともある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	中には洋服をご自分で選んで着ている方もいる。散髪も二ヶ月に1回訪問理容に来て頂いている。タンスの中の衣類整理は担当者で行なっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	外食が出来なくなった為利用者さんが好まれるメニューを聞きとり、又、月1度以上はテイクアウトのすしや弁当にし喜んでもらっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分量の摂取を常に記録し、利用者様の状態にああ瀬手食事を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの必要性を全職員が理解しており、洗浄時間や洗浄法等一人ひとりに合わせた支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のリズムやパターンを観察し、その方に合わせて声掛け、介助、見守りを行っています。さりげなく介助し、事故や不安のないよう心掛けている。歩行の不安定な方は夜間ポータブルを設置している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人一人、一日の水分補給をしっかりと摂れるようにチェック表を用いながら心掛けている。食物繊維の多い食品を使用して調理したり、ラジオ体操、レクリエーション、散歩等の運動を心がけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回を基本として希望や状況に応じて柔軟に回数を設定している。入浴したくない方にはスタッフを代えたり、時間を変更したりしている。柚子湯や菖蒲湯など楽しんで頂いている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中は活動して生活リズムを整えながら一人ひとりの体調や私情を見て、休息が摂れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	管理は個人別に分けて、出勤者が全員で誤薬がない様確認している。処方の変更は協力医と連携をとっている。薬剤師から詳しい説明を受けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様それぞれの生活歴を把握し、その生きてきた経験が活かせる場所を提供し、日々話し合いながらその人らしい暮らしができるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	ご本人の希望を家族に伝え、出来るだけ外出はご家族にご協力して頂ける様にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	特定の方はお小遣いを毎月貰い必要な物はスタッフに購入依頼している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望により、電話をかけて頂いている。手紙に関しては、手紙に関しては、字が書けない方は、職員が支援し代筆することもある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	静かな住宅街なので不快な音や光も無く穏やかに過ごされている レクリエーションでは、季節に合った工作を行い、展示している。整理整頓には心掛け、清潔感も保っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	仲の良い利用者同士で居室を行き来して雑談できるリラックスしたふんいきの仲で楽しく1日を過ごして頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にご本人・ご家族の希望に応じて、居室の北向き、南向きの意向を聞き入れ可能な限り居室替えをしている。途中でご本人の気分が変わった時の要望にも応じ模様替えをしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	職員がすべて行ってしまうのではなく、そばに付き添って声掛けを行い、本人の力を引き出すようにしている。掃除等の当番を設けてひとりひとりの役割りを持ってもらっている。		